

神奈川県立金沢養護学校



# 学校だより

第42号 平成22年9月28日

## キャリア教育 (4)

副校長 渡邊昭宏

キャリア教育は、行き着くところ「夢・希望・憧れをもって、それぞれがなりたい自分に近づき、自分らしく生きていく」ことをめざして、本人も努力し、周りも支援していく過程といえます。この過程で培われた力は「生きる力」そのものになり、お子さんが社会で生涯暮らしていくための原動力になることは間違いありません。しかしここで難しいのが「夢・希望・憧れ」をどう持たせるか、そもそもそれ以前にお子さんが「夢・希望・憧れ」といったものを持ってくれるのかということです。

小学部3年生に「あなたの夢は何ですか」「大きくなったら何になりたいですか」と尋ねてみても簡単に答えが返ってくるとは思えません。「どっちにする?」と写真カードで選ばせるような問いでもありません。そもそもが高等部を卒業する10年後の自分を想像したりイメージすること自体難しいことなのです。そうとはいえ「夢・希望・憧れ」といったものを持たなくてもいい、持たなくても仕方がないと決めつけてはそれこそ人権問題です。そこで、どうやったら将来のことを考えることができるようになるかを、段階的に工夫して指導していくことが私たちの使命だと考えます。

まず10年後というスパンが長すぎます。例えば小学部6年生に「中学生になったら」という話をするとします。4月には理解できなくても、卒業間際には何となく理解できてくることから、1年後の自分の姿を想像することさえかなり難しいことがわかります。そのために、イメージするモデルとなる中学部の生徒と身近に接したり、中学部の教室に入ってみたりする実体験が必要になります。高校生までのモデルがいるというのは特別支援学校の最大のメリットですから、ただ漫然と一緒にいるというのではなく、常日頃から意識させるように言葉かけなどをしていくことが大切です。**キーワードは「近未来を実際に体験する」**です。高等部の現場実習も単に進路選択のためより、むしろ卒業生や年長者とともに過ごすことで卒業後の自分のイメージをもつという意味のほうが大きいのです。

朝に「明日はプールだよ」というのと、夕方になってからそういうのではお子さんによって「明日」の受け止め方が違います。金曜日に来週の話をしてわかるかといえばそれも疑問です。つまり一人ひとりの児童生徒にとって、それぞれのわかりやすいカレンダー・スケジュール表で説明しながら伝える必要があります。給食の献立を朝知ることによって「見通し」や「期待」をもって午前中を過ごせればそれだけでもすごいことです。現在からすれば**1分後1秒後でも「将来」**です。目の前の出来事とその先もずっと時間的に連続しているという「将来」のイメージを、お子さんがどのくらい先までもっているかを見極め、それを少しずつ伸ばしてあげることがキャリア教育です。そういう意味で「もういくつ寝るとお正月、お正月には・・・」という歌詞は奥が深いと思います。(次回に続く)